

日本作業科学研究 執筆要領

(2016年4月17日改定)

1. (原稿) 原稿は和文、欧文(英文を原則とする)のいずれかを使用し、文字の大きさを10.5ポイント以上、上下左右の余白を3cm程度とし、A4判の白紙に鮮明に印字する。和文原稿は、1枚あたりの字数を1200字(40字×30行)とする。英文原稿は、一般的フォントおよびサイズを使用し、行間はダブルスペースとする。1枚あたりの語数の目安は400語程度とする。漢字は、必要ある場合以外は当用漢字を用い、かなは現代かなづかい、送りがなを用い、句点はカンマ(,)、読点はピリオド(.)とする。改行の場合は1字あける。図表は印刷面積によって原稿枚数に換算する。和文原稿で外国語を原語で記載するときは、固有名詞やドイツ語の名詞など特別な場合を除き、半角文字で記載する。数字も半角文字とする。
2. (論文の種類と量) 枚数(本文)は、原則として次の通りとする。
 - (1) 総説: 20枚以内(図表を含む)(刷り上がり12ページ以内)
 - (2) 研究論文: 15枚以内(図表を含む)(刷り上がり9ページ以内)
 - (3) 実践報告: 15枚以内(図表を含む)(同上)
 - (4) 短報: 8枚以内(図表を含む)(刷り上がり5ページ以内)
 - (5) 資料、書評: 4枚以内(図表を含む)(刷り上がり1ページ以内)
 - (6) その他: 適量を編集委員会が判断する。
2. (著者) 著者名は5名までとし、それ以外は謝辞に含める。著者が複数の場合は、著者名をカンマ(,)で連ねる。アルファベットで書く場合は、名の頭文字を大文字、残りを小文字にし、姓はすべて大文字にする。
3. (表紙) 第1枚目を表紙とし、論文の種類、原稿の枚数、図表の数を記載する。表題、著者名、所属機関、連絡先(住所、メールアドレス等)については、日本語と英語で記載する。
4. (要旨) 要旨と、内容を示す適切なキーワード4以内を、日本語と英語で記載する。要旨は日本語では400字程度、英語では300語程度とする。
5. (構成) 論文は、論理的な構成で書き、必要に応じて見出しを記載する。原則として、研究論文では、はじめに、方法、結果、考察、文献とする。実践報告では、はじめに、実践の紹介(経過を含む)、考察、文献とする。論文のはじめに、

論文の目的と意義を記載する。

6. (図表) 図表は、必要最小限度にとどめ、重複をさける。本文と分けて作成し、原稿の末尾に添え、本文中の欄外余白に挿入箇所を赤字で指定する。図表は、表1、Table 1、図1、Fig.1のように番号を付ける。図の表題は図の下に、表の表題は表の上に入れる。
7. (人名) 本文中の人名は、必要な場合を除いて姓のみを書き、敬称は省く。欧文綴りのときは、頭文字を大文字、その後を小文字する。本文中の引用箇所では、引用文献の著者と出版年を記す。記載例を示す。

作業科学研究では、特定の個人を作業的存在として理解する試みがなされている(Clark 他, 1999, 小田原他, 2011)。Polatajko (2010) は、作業について誰が、何を、いつ、どこで、どのように、なぜ、を理解することが作業の真の理解につながると述べている。

8. (文献) 文献は引用文献のみ記載する。記載は、著者名のアルファベット順とし、文献番号は付けない。各文献は、著者名、刊行年次、表題の順とする。単行本の場合には、表題の後に版数、出版社名(外国の場合は出版地も記す)を書き、雑誌論文の場合には、表題の後に雑誌名、巻数、ページを記す。雑誌名は省略せずに書く。編者がいる単行本の場合には、引用した章の著者名、刊行年次、表題、編者名、書名、版数、出版社名、章のページを記す。翻訳書の場合には、著者名の後に訳者名を書き、できれば原著の情報を記載する。書名および雑誌名は斜字体とする。ウェブサイト上の文献は、サイトのアドレスと参照日を記載する。記載例を示す。

Aoyama, M., Hudson, M.J. & Hoover, K.C. (2012). Occupation mediates ecosystem services with human well-being. *Journal of Occupational Science*, 19, 213-225.

Clark, F., Ennevor, B.L. & Richardson, P.L. (村井真由美・訳) (1999). 作業的ストーリーテリングと作業的ストーリーメイキングのためのテクニックのグラウンデッドセオリー. In Clark, F. & Zemke, R. (Eds.) (佐藤剛・監訳), *作業科学—作業的存在としての人間の研究*. 三輪書店, pp. 407-430.

小田原悦子, 辻郁 (2011). ある脳卒中者が経験した作業

の変化～指向性～. *作業科学研究*, 5, 36-44.

Polatajko, H.J. (2010). The study of occupation. In Townsend, E.A. & Christiansen, C.H. (Eds.), *Introduction to occupation: The art and science of living 2nd ed.* Upper Saddle River, NJ, Pearson. pp. 57-79.

World Federation of Occupational Therapists (2012). Position statement on occupational science revised. <<http://www.wfot.org/ResourceCentre.aspx>> 参 照 日 2012.7.10.

吉川ひろみ (2008). 「作業」って何だろう. 医歯薬出版.

9. (脚注) 脚注は, 通し番号をつけ, 本文と分けて記載し, 原稿の末尾に添える. 脚注に対応する本文中の語句の右肩に上付き数字を記載する.